

2019 年度春セメスター 授業評価結果

1. 実施率

表 1 授業評価実施率

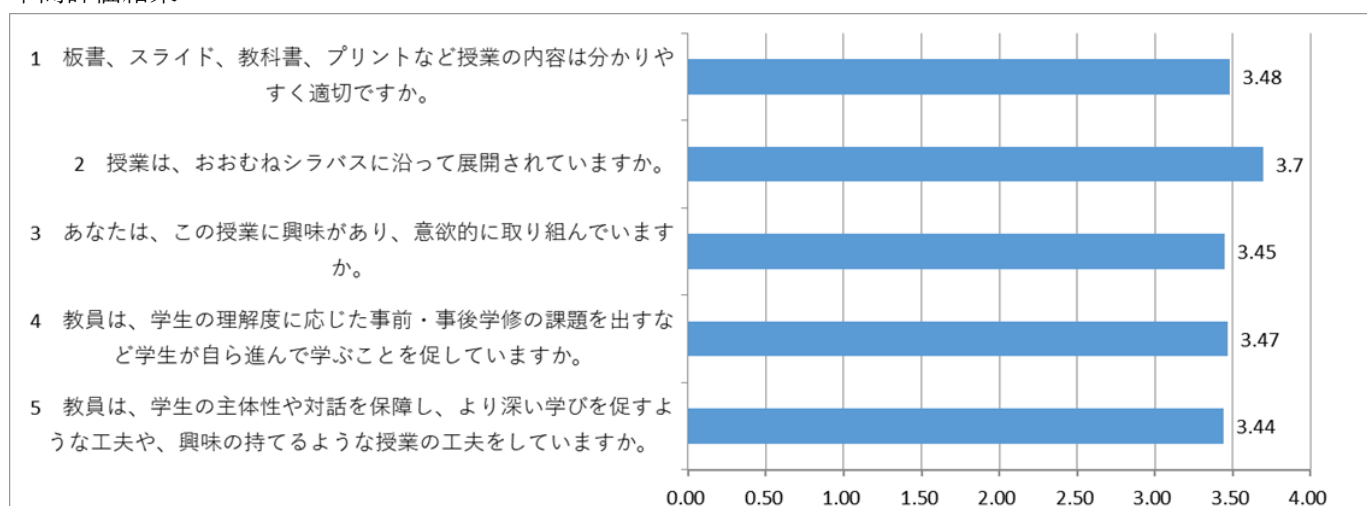
	対象科目数	実施科目数	実施率 (18 秋セメ実施率)
共通科目	62	62	100% (100%)
看護学部	61	61	100% (100%)
社会福祉学部	106	106	100% (100%)
リハビリテーション学部	88	88	100% (100%)
計	317	317	100% (100%)

2019 年春セメスター最終評価における共通科目、看護学部、社会福祉学部およびリハビリテーション学部の授業評価の実施率は、すべて 100%であった。今後も実施率 100%を継続したいと考える。

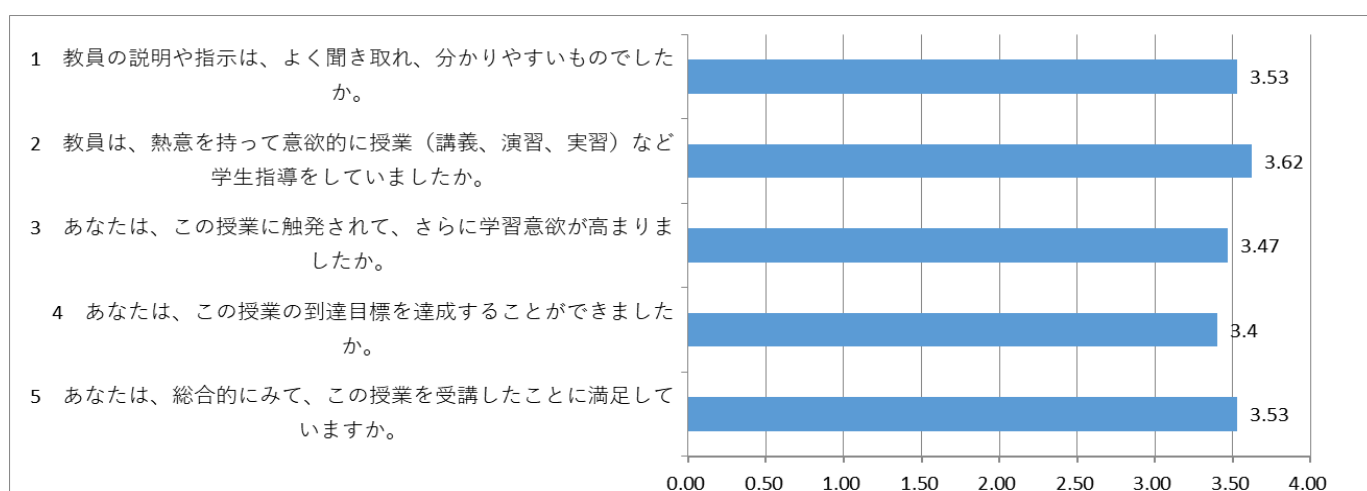
2. 授業評価結果

図 1 全科目における質問項目ごとの平均評定値

中間評価結果



最終評価結果



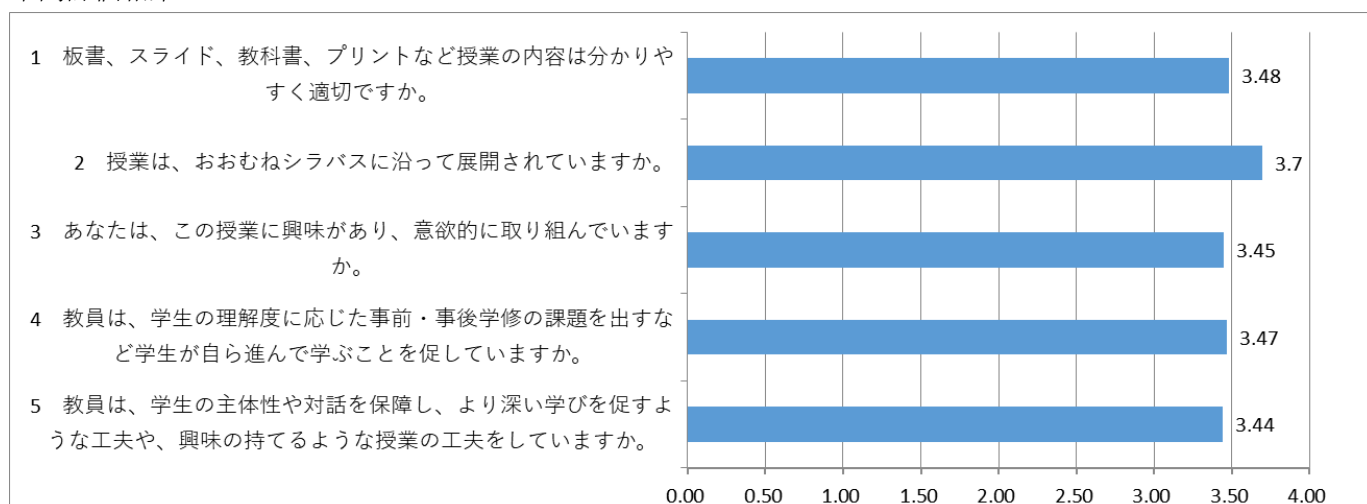
評価票の評価について「そう思う」（4点）～「そう思わない」（1点）と得点を与え、質問項目ごとに平均評定値を算出した（図1～図5）

全学 FD 委員長のコメント

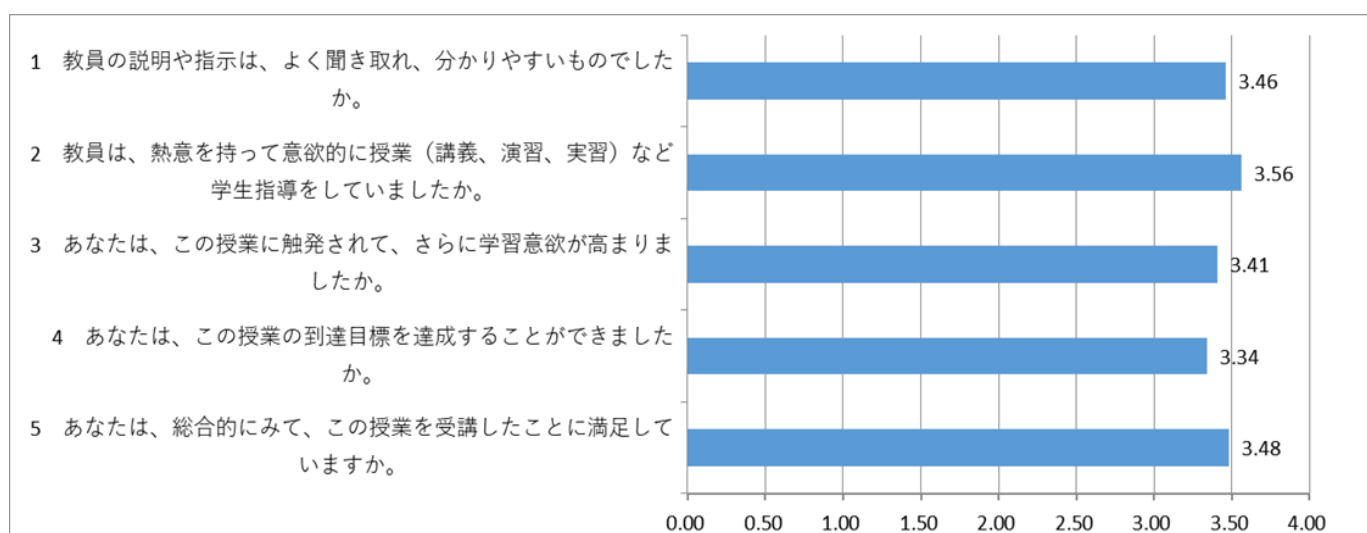
全体的に見て、概ね良好な評価結果であった。最終評価で教員の熱意など評価は高いが、中間評価では学生の主体性や対話を保障した授業の工夫についてはそれほど高くはない。また、学生自身が到達目標を達成したかどうかについても結果は高くはないので、全学を挙げて「主体的・対話的で深い学び」となり明確な達成目標を掲げて授業を展開していけるように努力したい。

図2 看護学部における質問項目ごとの平均評定値

中間評価結果



最終評価結果

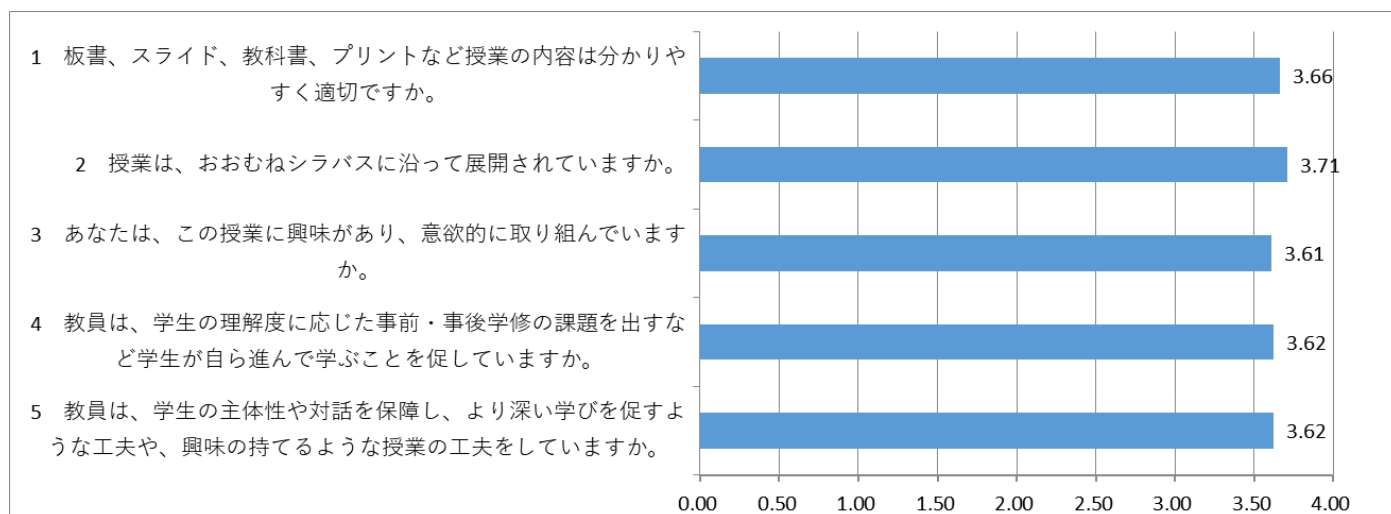


看護学部 FD 委員会のコメント

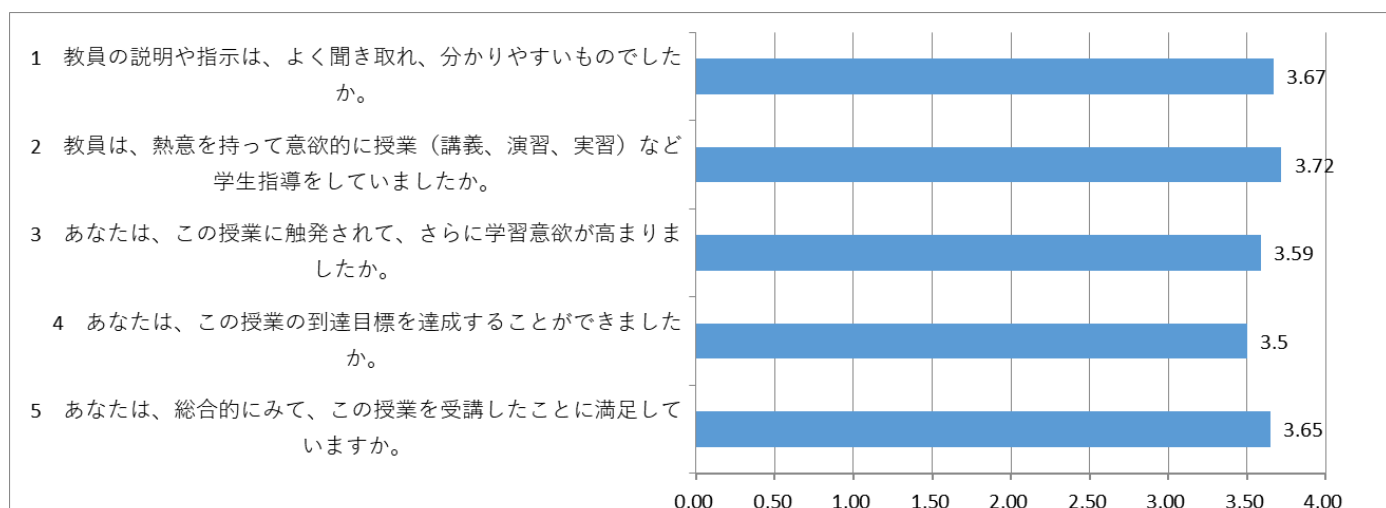
全体的に概ね良好な評価結果であった。注目するところでは、中間評価の「学生の意欲的な学習態度」の評点と最終評価の「学生の学習意欲」、「受講満足度」の評点が同じ程度の評点が得られ、学習意欲の維持継続が伺える。それについては、中間評価の学生の主体的学習を促す「教員の教授法の工夫」や「学習内容の明確化」等の評価にみるように教員の教育改善や工夫の努力の成果と考えられる。最終評価の「授業の到達目標の達成」の評点は、評価時期が最終回後ではないため低い評点になったと思われる。今後は授業の到達目標を学生自身が確認できる授業内容の工夫が必要であろう。またピアレビューの実施率を高め、FDの教育力向上に努力したい。

図3 社会福祉学部における質問項目ごとの平均評定

中間評価結果



最終評価結果

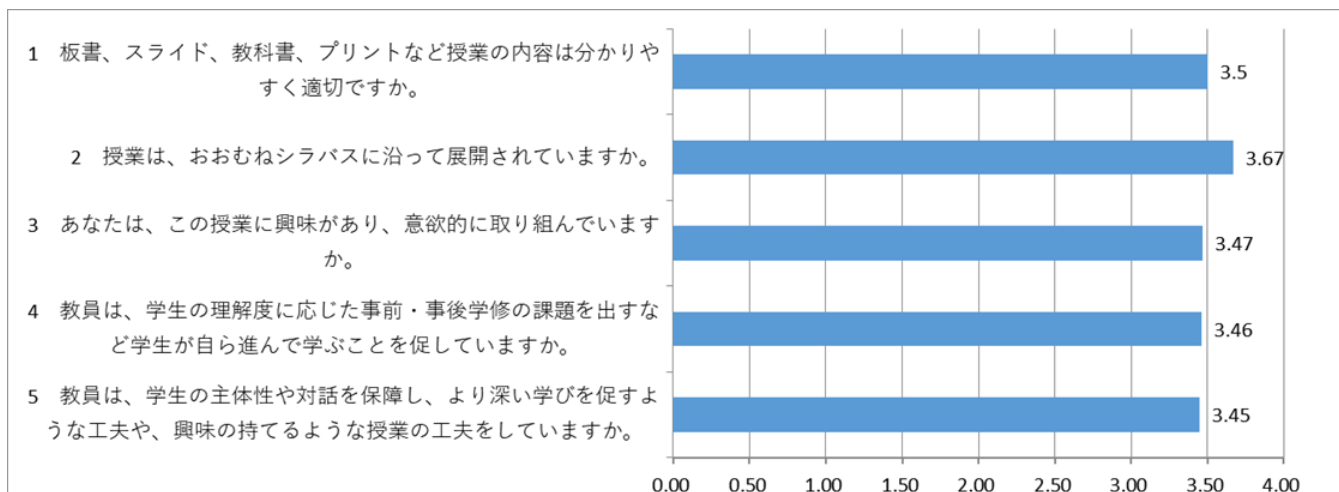


社会福祉学部 FD 委員会のコメント

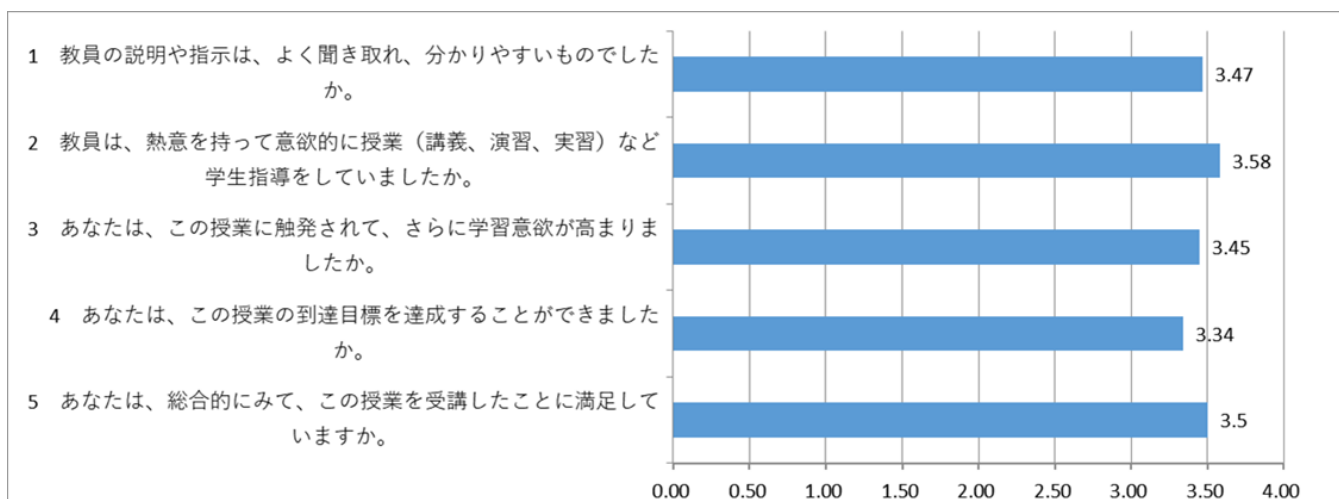
中間評価も最終評価も非常に良好な評価結果となっている。今後ますます学生が主体的に学修を進められるように学部全体でこの評価結果を共有して、さらに「主体的・対話的で深い学び」となり、到達目標を達成できるように授業改善・向上に努めていきたい。

図4 リハビリテーション学部における質問項目ごとの平均評定値

中間評価結果



最終評価結果

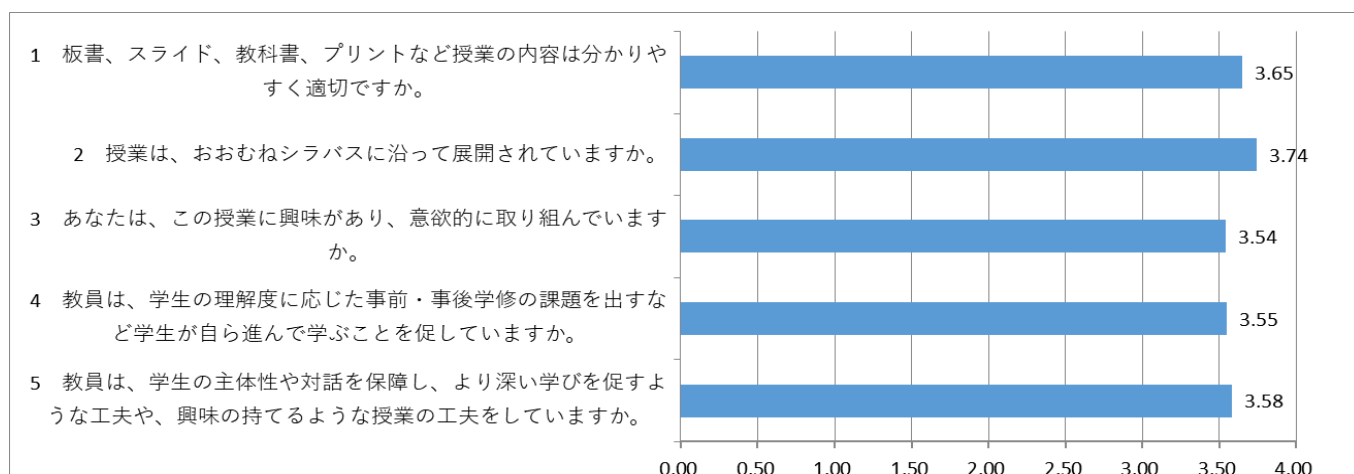


リハビリテーション学部 FD 委員会のコメント

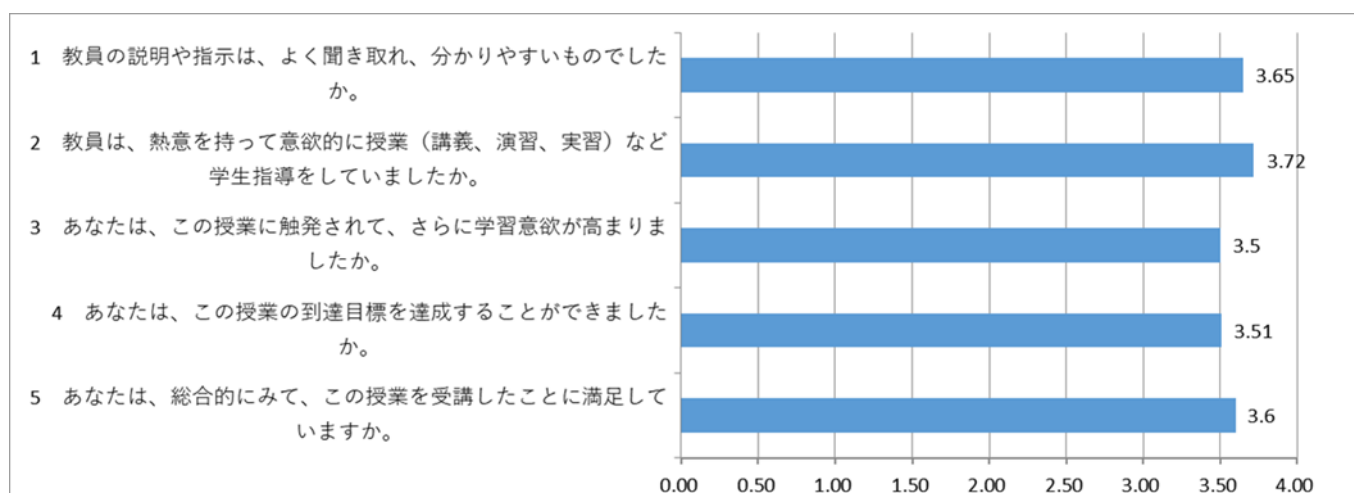
2019 年度春セメは演習、実習を含むすべての科目で授業評価を実施することができた。中間・最終評価の結果から、教員の授業に関する評価（中間：1, 2, 4, 5 最終：1, 2）では、概ね 3.5 前後の評価であった。学生の学修意欲に関する評価（中間：3 最終：3, 4, 5）では、概ね 3.5 前後の評価であるが、到達目標を達成したかという項目が若干、低値だった。今後は、教員の授業の進め方だけでなく、受講している学生の学修態度や意欲、さらに到達目標を意識した授業計画や内容を再考する必要があると感じた。また、リハ学部独自の実習科目の授業評価を検討する予定である。

図5 教養・共通科目における質問項目ごとの平均評定値

中間評価結果



最終評価結果



教務部長のコメント

昨年度に引き続き対象科目全てにおいて授業評価が行われたことは、非常勤講師が多い教養・共通科目ではあるが、授業評価の意義の理解が進んでいる結果であると思われる。中間評価項目、最終評価項目の全てにおいて3.50以上と高い結果であった。特にシラバスに沿って授業が展開されている、授業内容が分かりやすい、教員が意欲的などの項目が高い結果となった。それに対応して、学生も授業への興味や学習意欲が高まり、満足度も高い結果となっている。教員と学生間で、相互作用を生み出していると考えられる。この授業評価を振り返り、さらなる向上に結びつけていきたい。